



やり抜く子供は自分で決め、投げ出す子供は親が決める

園長 本多 郁代

母 「今日は100円玉を3つ、お財布に入れるよ。お祭りだから好きに使っていいよ。」

子供 「ホント、何でもいいの！」

母 「いいよ、ただし100円玉は3つだよ。いろいろ見て決めようね。」

子供 「おかあさん、金魚すくいにする。お金は何個いるの？」

母 「1個だよ。100円だね。やってみる？」

子供 「うん。やりたい、やりたい。」

～金魚すくいに挑戦するが、1ぴきもすくえず終わる。しばらく考え込む。～

子供 「おかあさん、もう1回やりたい。」

～2回目、やはり1ぴきもすくえず、金魚2匹もらった後、再挑戦を誓い満足顔で店を去る。～

これは、私が年長の我が子を育てていた頃に、祭りの夜店で出会ったある親子の会話です。

どんなに小さな子供でも、与えられた条件の中で一生懸命考えさせ、自己選択、自己決定させることは大切なことであることが分かります。そして、それによって子供が満足することはもちろんのこと、子供の意欲を伸ばし、さらには子供の自己肯定感を高めることになるのです。

残念ながら若き頃の私は、子供に失敗をさせたくないとの思いから、我が子に任せることができず、子供が挑戦する前から無理だと決めつけたり、自分の価値観を押しつけたりしていました。

「金魚すくいはまだ無理だから、来年やろうね。」

と、我が子に言い聞かせていた自分の隣で、子供を信じ、子供の思いを尊重した子育てをしている母親に出会ったあの時の衝撃を、私は忘れることはできません。

子供は自分がやると決めたことは、最後までやり遂げようとするのです。思うような結果が出なくても、自分で決めたことはあきらめません。子供がやろうとしていることを、邪魔しない、答えを教えない、認める姿勢を大切にして、「ファミリー市之瀬」は、全職員でやり抜く子供を育てていきます。

